



2020～2021

沼田ロータリークラブ会報

ロータリーは機会の扉を開く
ROTARY OPENS OPPORTUNITIES

2020～2021年度 国際ロータリー会長 ボルガー・クナーク

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 清野啓介 幹事 木下康彦 会報編集 西田俊太郎
例会場 ホテル ペラヴィータ 事務所 沼田市下之町888 テラス沼田7階 TEL 0278-24-1177

第3067回 例会報告

2020年10月20日

記録 西田俊太郎

例会予告

10/27	臨時総会
11/10	ノンフィクション作家 藤原章生 先生

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2020年10月27日発行 №14

公開例会

探検と人生

探検家 角幡唯介先生



■司会 金井俊介プログラム委員長

■会長挨拶 清野啓介会長

本日は公開例会として探検家でありノンフィクション作家の角幡唯介先生をお迎え開催でき多くの方に来ていただきありがとうございます。新型コロナウイルスのため多くの方を集めての開催で感染防止協力をお願いします。先生とは山を通じて知り合い、無名時代はよく沼田に来ていただき山に行きました。本日は貴重な体験をお話いただきます。

■講師紹介 清野啓介会長

1976年北海道生まれ、早稲田大学で探検部に入り、登山だけでなく探検の魅力に引き込まれました。ヒマラヤの謎の川のツアンボ峡谷探検した記録「空白の5マイル」で開高健ノンフィクション賞、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。北極圏1600kmを徒歩でコランクリン隊の消えたことを調査した「アグルーカの行方」で講談社ノンフィクション賞。冬の極夜を80日間探検した「極夜行」でヤフーニュース本屋大賞ノンフィクション本大賞、大佛次郎賞を受賞。

文明の力に頼らず自分の力で切り開いている探検の様子をお聞きいただき、生きていくこと

の大切さを感じていただきたいと思います。

■講演

なぜ探検家になったのか聞かれます。北海道の山間地で石炭が盛んな所で生まれ、中学の頃に閉山してしまい寂れてしまいました。家はスーパーを営んでいて、父はロータリーにも入っていました。支店もいくつもあり大きくしていましたが、バブル後は大変でした。長男でしたので、家を継ぐと周りも親も期待していましたが、それが嫌でそのルールには乗りたくない、自分の生き方、オリジナルな人生を歩みたいと思っていました。

早稲田に入り探検部があることを知りました。山登りだけではなく、誰もしたことない行動ができる部活であり、自分の求めているものに合い、2年の時に入りました。そんな考えですので卒業しても就職は考えていなく、社会に迎合したくないと思っていました。ですから勉強もろくにせず6年在籍しました。いよいよ卒業することになりましたが、とりあえずバイト生活をしました。丁度インターネットの環境が整った時期で、探検旅行サイトを調べてたら、ニューギニア探検があり、隊長の藤原氏に会って話を聞き、大変面

白い計画とその人柄が魅力的で参加することになりました。

ニューギニアへはヨットで行き、現地の大きな川をボートで奥に行って、5000m級の山にルートを作るというもので、卒業後1年かけて準備をして行くことになりました。

藤原氏は、ヤマ師のような所もあり、天真爛漫な性格で、新宿の高層ビルを登り有名にもなりました。人間的魅力はあるのですが、金の匂いに敏感な所もあり危険なことにも多くあったようです。

ヨットの練習や魚釣りなど生活訓練も行つて3人組で出発しました。現地まで40日かけて航海しましたが、日本出発後の5日間は船酔いと高波で苦しみました。後は慣れました。

現地に着いて川を1週間位で廻り山の麓に着く予定でした。途中のベースキャンプに情報が入り、独立ゲリラの活動が激しく、外国人は拉致して身代金を取ると言われ断念しましたが、2番目の山に向かいました。4800mの山で山頂の手前500mが岩場でロッククライミングになりました。藤原氏がトップで進んだのですが中ほどで高山病でダウンして、代わりに私がトップと登頂しました。2001年のトリコウ山の北壁でした。目標の山ではなくてロッククライミングもたいしたことなかったと思います。その後現地のガイドがタスマニアタイガーが1番目の山にいますと藤原氏に言って、彼は金の匂いがしたようで、話に乗ったのですが野良犬を掴まされ、私は先に日本に帰ってきました。彼はそのまま居残り、今はネットカフェしています。テレビ番組で「こんな所に日本人」という番組があり、出演しているのを見ました。今まで42年の人生で一番すごい人です。

2001年の続きをしないと今度は北でなく南側から登りました。麓の村で藤原氏に会いたいと村長さんに聞いたら、やはりゲリラ活動が激しいので止められ、藤原氏には会えずに帰りました。

次にチベットの探検ですが、学生の頃に行きたいと思っていたヒマラヤで7000m級の山々に挟まれた峡谷があり、20世紀に何人か挑戦したができなかったと大学4年の時に知りました。中国に含まれている所でチベットに外国人が入るのを許可しないので、正式ルートは諦め、個人が入るのは大丈夫かも

しれないが、失敗しても助けはないのを覚悟して、3割は失敗で死を意味し、6割は成功と思い若さで行くことにしました。

現地の村からは地元民に案内と協力をお願いして川の手前まで行きました。目的地は川の反対側で、ここを渡るには専用のロープが張っており、それを滑車で滑り渡るのです。案内人がここから先は誰も行ったことがないので、帰る時はこのロープを使えと渡されました。

やはり大変な所で、水を持ってなかったのに沢の水をと思い向かったのが、足を滑らせ転がり落ち激流が見えた時は死を覚悟しましたが、奇跡的に大樹があり根本で止まれ助かりました。

この洞窟はチベット仏教を守り残すための理想郷の一つであった。1950年中国共産党の侵略があり坊主達はここを目標に逃げてきた伝説の地と思いました。洞窟の中には何もありませんので、本物かどうか不明です。

この後朝日新聞に勤め文書を書くことになりましたが、やはり探検を求めています。セルツアンポー峡には再度行きました。前回に行けなかった所を目標にしたのですが、失敗してしまい、今でも心残りです。

この時は天候不順で雨と雪が酷く冬山用にしていなかったので4000mを越える所で疲労が酷く、以前の村に向かったのですが村が消えていました。食糧もなくなり反対側に村があったのですが、橋もなくなっていて泳ぐしかないと感じて少し上流に行くとロープがあり、なんとか渡れました。村でタバコを買うため店に行くと駐在さんがいて、インド国境近くで警備が厳しい所だったので、強制送還されることになってしまいました。

これらのことをまとめ「空白の五マイル」を出版したら賞をいただき、親も認めてくれ安心したようです。

2011年に北極圏を自分でソリを引いて旅をしました。カナダからグリーンランドで、カナダのコーンウォリス島のレズリュートから海峡を渡り1600km3カ月の旅でした。35才の時で気力体力充実していたのでできたと思います。

この探検の目的は、19世紀イギリスのフランクリン探検隊が北極圏調査で島々を回っていたが、キング・ウィリアムス島で氷に挟

まれ動けなくなり、全員133名が下船して歩いて避難したが全員死亡した事件があり、どこまで行ったかも不明でした。最近船が発見されニュースになり、この事件の謎を追跡したいと思いました。この時のオーロラが一番きれいで素晴らしいものでした。北緯70度より北はあまりきれいには見られないようです。

旅の途中で体力が落ちてヘルペスができしまい、更に凍傷にもなりかけたので薬を飲んだのですが、血管を広げ血のめぐりを良くするもので、ヘルペスから血が流れ出てしまい、血の氷柱になってしまいました。

食糧も荷物を最小にするため最低限にしていますので、動物を狩りすることもありました。ある時ジャコウ牛を捕獲しさばきましたが、母牛のようで子牛が離れず泣き続けて、少し罪悪感を感じました。自分が生きるためとはいえ負い目を感じました。その後もそれを感じはしますが、だんだん薄れてきました。生き物を見ているか、肉だけを見ているかが大きな違いであると思いますが、感謝の気持ちは忘れません。

北極圏には多くの生き物がいます。その中で狼は危険です。人の様子を伺いながらすきを狙って食糧を取ってしまいます。狼が絶滅させられた地域があるけど、分かる気がしました。イヌイットも殺すよう言っていました。世界的には保護と言っていますが、数が多くなり過ぎたようです。雪や氷が融ると釣もしたりして103日間続けられました。北極圏は不毛地帯と言われているけど自然豊かな所で、もう一度行きたいと思います。

拠点をグリーンランドのシオラパークに置いています。ここはまだ犬ソリが主流で狩りに使われています。日本人にもゆかりがある所で北極の要所でエスキモーになった大島氏が家族でいます。前に話した藤原氏と2大探検家と言われている方です。自分の理想に近いのが大島氏で2014年から通っています。もし結婚していなかったらここで生活していたかもしれません。電気とスマホはあり通じますが、基本的に自給自足で、アザラシやセイウチなど捕って犬ゾリ生活です。ここにはもう一人山崎氏がいますが、日本とここを半年づつ生活していて、私の兄のような存在です。

極夜の時期がありそれを体験してみたく、

カヤックで生活物資を乗せて移動することになりましたが、現地人はカヤックはセイウチに襲われるから危険と注意されました。出発して4日目に同行者のカメラマンがセイウチに襲われ、まだ若いセイウチで一番危ない状況でした。自分は助けるより逃げました。動物が狩りをしているようで逃げる小動物の気持ちがありました。なんとか彼も逃げることでできましたが、氷の世界でセイウチが一番です。そのまま進むと今度は私のカヤックが襲われ、成人した大きなセイウチで腰が抜けましたが、運よくオールで頭を殴ったら逃げていってくれ助かりました。

10月下旬から2月下旬までが真っ暗闇の時期で、その世界から太陽が出た時にどう感じるか楽しみでした。冰山は危険でどう動きいつ崩れるか分かりません。ブリザードが続くと流され、雫が飛んできて凍りづけになってしまいます。

氷の上を犬一匹とスキーで進んでいきました。この時は裏目続きとなり、カヤックの食糧は白熊にやられ、出発前に備蓄所を2カ所用意して食糧をしまっておいたけどやはり白熊に襲われ愕然としました。ジャコウ牛を捕るしかないが、最後は同行の犬をとまで考えました。ただ夜の世界では犬は必需品で動物から守ってくれます。半分諦めて再度探したら、ドッグフードだけ1袋ありなんとか繋ぐことができました。

75日目に初の太陽を見ることができましたが、その前1週間ブリザードで動けず最悪でした。たった1時間でしたが見られ感激しました。この探検も波瀾万丈でした。

その時の犬は元気でリーダーになっていますが、その時は従順であったと思ったのですが、今では暴れん坊です。犬ゾリの訓練を昨年より始め、だいぶ慣れて扱えるようになってきました。

今年は世界中新型コロナウイルスのパンデミックのため、カナダへの入国禁止となり氷のコンディションも良く43才最後のチャンスで北極海と思いましたが出来ませんでした。でもグリーンランドは毎年行っていますのでPCR検査を受けて11月下旬に行こうと思っています。犬の世話もありますので。50才までにはグリーンランドの北の端まで行こうと思っています。

野 球 部 準 優 勝

(10月3日)



沼 中 キ ャ リ ア 出 前 講 座

(10月9日)

